

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1271202754		
法人名	特定非営利活動法人 グループホームかがやき		
事業所名	グループホームかがやき新松戸		
所在地	千葉県松戸市旭町4-1150-3		
自己評価作成日	平成22年11月7日	評価結果市町村受理日	平成23年1月7日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo.chibakenshakyō.com/kaigosip/Top.do">http://kaigo.chibakenshakyō.com/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム		
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8		
訪問調査日	平成22年11月23日		

グループホームかがやき新松戸は開設され6年目を迎えています。新松戸駅と南流山駅の間にあり、松戸、柏、流山、市川等近辺や東京都内の名所も頻繁に出かけ、入居者に喜ばれ大変好評を得ています。ホームの周辺環境は自然に恵まれており、野菜の収穫や毎日の日課の散歩を楽しんでいただいています。ホーム内では、入居者同士や職員との馴染みの関係を重視して、精神的に満足を得られる対応を心掛けています。また、入居者がその人なりにできることを増やし充実感を持って、なるべく普通の人と変わらない日常生活を送っていただくことを支援をしています。今後、ますます地域住民の様々な年代の方々との交流や催し物の参加、外出活動を活発に行い、入居者の毎日の生活がより充実するよう、職員一同いっそう努力してまいります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域の一人としての日常生活や外出活動を理念に掲げ、地域住民と共に楽しく健やかな生活が送れるよう柔軟なサービスの提供に努めている。地域行事への参加、ボランティアの受け入れ、老人会との交流等、積極的に地域との交流を図っている。また、幼稚園児との交流や学生の職場体験受け入れ等で、さまざまな世代との交流も入居者に喜ばれている。外出活動には福祉車両を活用し、入居者全員での外出や外食が楽しめる他、個別の外出希望にも柔軟に対応し、戸外での楽しみを数多く提供している。事業者は、職員が働きやすい職場環境作りにも努め、人材が安定しており、入居者に安心して生活してもらえるように配慮している。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業者の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
<b>理念に基づく運営</b>				
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	いつまでも「健やかに」「楽しく」「その人らしく」をもとに、地域の一住民としての日常生活や外出活動の支援を行っています。という理念を作り実践して成果を出している。具体的には看護師を常勤にして健康管理の充実させ、外出、外食先、地域との交流をバラエティ豊かにし、本人の有する能力に応じて支援することに力を入れている。管理者と職員は日々理念を共有し、実践するためのアイデアや工夫を凝らしている。利用者に向き合う際に、理念を具体化していくことを意識して取り組んでいる。	「健やかに・楽しく・その人らしく」という事業所独自の理念を掲げ、地域の一員としての日常生活や外出活動を支援している。事業所内に理念を掲げると共に、研修や日々の業務において常に理念の確認を行い、職員全員が理念を共有して実践に向けて取り組んでいる。また、職員が安定しており、継続的により深い理念の理解に向けての取り組みがなされている。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	近所の方、地主さんに気軽に立ち寄ってもらい、米、野菜、草花などを頂いたり、お餅作りに参加させてもらうなど、日常的な付き合いができています。マンションのボランティア団体の方や民生委員さんの紹介で、地域のイベントには数多く参加できています。地域の老人会のいきいきサロン、楽器や歌の演奏会、お話し会、お祭りなど数多く行事に積極的に参加している。また保育園、幼稚園、小学校、中学校、高校とは互いに行き来して交流があり、教育実習や職場体験の場として提供することが恒例になってきている。七夕の飾り付けを一緒にしたり、ハロウィンでは子供達の仮装訪問があったり、餅つき大会の参加など季節に応じた行事に地域の皆さんと共に参加し交流が来ている。	地域に根ざした施設運営に努め、地域住民が気軽に来訪出来る環境を作り、日常的に交流を行っている。地域行事への参加・ボランティアの受け入れ・老人会との交流等、様々な形で積極的に地域との交流を図っている。また幼稚園児との交流や、小学生・中学生・高校生の職場体験の受け入れ等を行い、世代間交流を図ると共に地域貢献にも努めている。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者の日常生活を第一にしつつ、地域の高齢者向けに月数回の体操教室開催している。また学生の教育の場として積極的に提供させていただいている。	
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催して24回を数える。毎回違うテーマを話し合ったり、同じテーマで内容を深めている。参加する家族が増えており、利用者の状況やサービスの実際を写真で見てもらい報告している。会議のメンバーと話し合いそれぞれの幅広い立場の貴重な意見を積極的に取り入れている。自己評価及び外部評価の結果を公表し、評価の取り組みや改善への取り組みを説明し、モニターしてもらい多くの意見、アイデアをサービスの向上に活かしている。メンバーの専門性やネットワークを活かして様々なイベントに参加させて頂いている。また、運営推進会議を行うことで研修や地域の福祉サービスの勉強会に参加することが出来ている。	運営推進会議は2ヶ月に1回、地域包括支援センター職員・民生委員・家族・職員等を構成員として開催している。会議では、施設の活動状況を写真を交えて報告し、施設の理解促進に努めると共に、意見交換等を行いサービスの質の向上に活かしている。また、非常災害時等の近隣との協力体制の構築にも努めている。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村からの各種報告書類は速やかに提出して、福祉事務所にも定期的に利用者の報告をしている。市町村担当者に事業所の考え方、運営の実情を積極的に伝えるために、パンフレットや通信を送付している。訪問時にはコミュニケーションをとり運営の実情を伝えている。市町村主催の研修や講演会や松戸市認知症高齢者グループホーム協議会に積極的に参加をしている。	松戸市認知症高齢者グループホーム協議会や市主催の講習会等に積極的に参加し、密な連携が図られている。また、定期的に施設の広報誌やパンフレットを持参し、施設の状況報告を行うと共に、業務相談や情報交換等を行い協力関係を築いている。
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者及び全ての職員が身体拘束の内容を文献を用いて学び、その弊害を認識して、日々申し送りやケアカンファレンスで拘束は行わないことを徹底している。また居室や日中玄関に鍵をかけることの閉塞感、不安を理解しており玄関ドアのチャイムや事務室からの小窓を使い工夫している。開放的な運営方針のため、地域や家族の方々に理解や協力を得て、鍵をかけず自由に外に出て頂けるケアに取り組んでいる。	身体拘束排除の施設理念・方針を掲示すると共に、研修を実施して職員全員が正しく理解し、身体拘束をしないケアの実践を行っている。また、日中は玄関の施錠はせず、入居者が外に出た場合は職員が付き添って見守り、自由な生活の支援を行っている。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職員全員が県と市の高齢者虐待防止関連法等の資料やマニュアルを読み学んでいる。また研修を受け、しっかり知識を持ち、日頃より声かけ、接し方に改めて注意を払い、虐待の徹底防止に努めている。	

[千葉県]グループホーム かがやき 新松戸

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営者が社会福祉士であり、また職員が日常生活自立支援事業や成年後見制度の文献を読み学んで、利用者に必要と考えられるか話し合いを持っている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	前もって契約書をお渡しして、じっくり理解いただいてから契約を結んでいる。契約解除の際も十分な説明を行い理解・納得を図っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々運営者、管理者、職員が個別に利用者や家族等の意見、不満、苦情を伺い改善に取り組んでいる。運営推進会議にも参加して頂く家族の方を増やして、各々が外部者へ表せる機会を設けて運営に反映させている。また家族には積極的にコミュニケーションを密にして言い出しがたいことを考慮した上で、訪問時、電話、書面を用いてくり返し率直に意見を伺っている。頻発に連絡や会話ができていますので、要望等を引き出せている。また適宜、アンケートを実施して意見、苦情を貴重なものと捉え活用して、すぐに改善し反映させている。	相談窓口を設置すると共に、電話や面会時に直接家族の意見や要望の確認を行っている。また、家族と密にコミュニケーションを図り、意見を言いやすい関係作りに努めている。他にも運営推進会議の活用やアンケート調査の実施等、積極的に意見収集を行っている。挙げた意見や要望に対しては、職員会議等で検討し職員全員に周知を図り、速やかな対応に努めている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は、運営方針、理念、イベント、外出先企画、ケアの仕方やシフトについて職員に意見や提案を聞く機会を毎日設け、信頼をおいて任せている。また日々の打ち合わせにおいて、コミュニケーションを密している。月2回のミーティング時に目的を明確にして意欲の向上や質の確保につなげている。	会議にて定期的に意見交換を行うと共に、日々の業務の中から職員の意見や提案等を引き出し、適切な支援の実践に反映させている。また、日々の業務内に、管理者が個別に話し、意見や提案等を言いやすい職場環境作りに努め、労働意欲の向上に繋げている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々仕事への取り組みのため目的を明確にして、ケアの仕方、仕事へのやりがいを聞いて実践できるように配慮している。研修参加、希望を考慮したシフトを組み、向上心を持って働けるように努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は段階に応じて育成するための計画を立て、順次様々な外部の研修を受けている。全員入社時研修を受け日々の業務で働きながらトレーニングをして現場で内部研修をしている。また松戸市認知症高齢者グループホーム協議会やセミナー講習、他グループホームにおいて外部で受け、研修内容を持ち帰り内部で勉強会をしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の親交のあるグループホームに職員が研修に行ったり適時問題や悩みの解消のためお互い協力している。松戸市認知症高齢者グループホーム協議会に参加し、職員は研修や事業者間の交流に参加してサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	体験入居を設け、期間中に本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けている。また本人の安心と関係作りをじっくり努め、話をよく聞く機会を作り、信頼関係作りを努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の立場に立ち要望や苦勞されてきたことの話をしっかり聞き受け止め、関係を築いている。本人と家族や家族間での考え方の違いも含め、受け止める努力をしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人、家族の状況、要望を受け体験入居で試して頂き、当ホームだけでなく、必要に応じて他のサービスの利用も含めた対応に努めている。介護保険のサービスや制度、利用手順など丁寧に説明している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入浴、洗濯、食事、散歩、買い物、外出、レク、体操、布団敷き、野菜作り、掃除、昔話、縫い物等を通じて一緒に過ごしている。本人から学んだり支えあう関係の中で、一方的な関係にならずに喜怒哀楽を共にしている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	訪問、電話、イベント等を通じて、コミュニケーションを密にしている。家族と喜怒哀楽を共に、本人の日々の生活を一緒に支援していく対等な関係を築いている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望を伺い、個別に以前住んでいた場所にお連れして馴染みの人の所や場所に行っている。それがきっかけで、近所だった方や友人がホームに来てもらえたり、手紙のやり取りが増えた。本人が以前頻りに通っていた百貨店やお店、飲食店、お寺なども本人と共に外へ出かけて喜んでいただいている。	入居者の生活歴や馴染みの場所を記録していると共に、個々の希望に応じて馴染みの場所への外出・買い物等に対応し、馴染みの関係継続の支援を行っている。また、家族との外出や外泊・友人の来訪等も自由となり、人間関係の継続も支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士仲が良く、食事、掃除、洗濯物たたみ時や日頃居室の行き来などがあり、共に助け合い支え合って暮らしている。職員は万が一、利用者同士の関係が悪化した時は、早期に気づき話し合いを持ち、支援に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族の元に戻られた方には、利用時培われた関係を大切に、ケアに関する相談や支援に応じている。その後の経過を伺い必要な場合は適宜支援している。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に本人や家族から暮らし方の希望、意向等をお聞きし、センター方式のシートを用いて過去から現在にわたる暮らし方の情報把握に努め自分らしい生活が送れるよう支援している。入居後も日々の生活の中から職員の気づきや本人の言葉、しぐさ、表情、行動等から思いを読み取るよう観察し、情報を皆で話し合っ共有できるようにしている。情報はその都度センター方式のシートに追加記入し多くの情報を集めるように努めている。	入居時に、本人や家族から生活歴や意向等を確認している。入居後は、日々の生活や会話の中から思いの把握に努め、申し送りノートや会議等で周知を図り、その人らしい生活の支援に取り組んでいる。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、プライバシーに配慮しつつ家族に生活歴やこれまでのサービス利用の経過等を伺っている。入居後はセンター方式を用いて適宜、日々の生活の中で観察や本人から意見を伺い、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式のシートで一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、本人の出来る力、わかる力を職員全員が現状を総合的に把握するよう努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式を活用し、チーム全体で利用者主体のアセスメントを実施し共有することで、本人がより良く暮らしていくための課題は何かを皆で探っていくようにしている。本人と家族の希望をお聞きし、職員全体で話し合い、本人本位の介護計画を作成するように努めている。毎月行うミーティングの中でモニタリングを行い現状に即した介護計画を作成するよう努めている。	本人や家族の意向、看護師・職員の意見を基に、職員全員で話し合い介護計画を作成している。毎月、目標の達成状況確認や評価を行い、必要に応じて介護計画の見直しを行っている。本人の得意分野を活かした活動や楽しく継続できるリハビリ等を採用し、「家族が入居者を理解できる」「残存機能を活かした生活できる」介護計画の作成に努めている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に日々の様子の事実、ケアの実践、結果、気づきや工夫を具体的に記入している。職員間で情報を共有して実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、要望に応じて馴染みの職員が以下のことを柔軟に支援している。 ・介護予防の体操の先生に定期的に来て頂き、運動機能の保持に努めている。 ・馴染みの往診の先生、看護師配置で医療連携体制を整えている。 ・運営方針である外出支援を福祉車両を用いて活かしている。 ・その時々一人ひとりの希望に応じた通院や買い物等の外出支援を柔軟に行っている。 ・地元美容室に車で送迎しいつでもおしゃれを楽しんでいただけるような支援も行っている。 ・職員が柔軟にいつでも通院介助可能である。 ・近隣住民の方々とのお茶会などにも本人の希望に応じて参加し交流を深めている。 ・毎日、レク、知的機能保持訓練、体操等続け、効果を上げている。		

【千葉県】グループホーム かがやき 新松戸

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の意向に沿って、訪問理容、訪問美容、マッサージを行っている。また市民センターで月一回のいきいきサロン、民生委員さんやマンションのボランティア団体の方々のご好意で様々な季節のイベント参加させていただいている。地域の消防署には避難訓練の指導をして頂いている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望により入居前からのかかりつけ医への通院を続けている方もいらっしゃる。職員が日頃の様子や健康状態などを報告し連携体制を整えている。また本人と家族の同意と納得の得られた内科医の往診も実施しており、本人の身体状況によっては往診回数を増やしたりなど適切な医療が受けられるようになっている。ホーム内の看護師が日常の適切な健康管理を行い、往診時に主治医と話し合ったり、緊急時も連絡の取れる体制が出来ている。また、必要時眼科や整形外科等の通院介助をしたり、かかりつけ医での検査、予防接種の際の受診の支援も随時行っている。	希望のかかりつけ医への受診が可能となっており、希望に応じて受診の付き添いも支援している。定期的に内科医の往診が実施されていると共に、看護師職員による日常の適切な健康管理が行われている。また、緊急時における医師や看護師との連絡体制も構築されている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者を良く知る看護師の介護職員が近所に住んでいて対応している。また往診の医療機関の看護婦長さんに何か状況の変化があった場合、気軽に相談しながら対応している。介護職員は相談を日常の健康管理に活用している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院は慣れない場所、治療処置等で本人のストレスや負担が多く認知症の進行も考えられるため、家族と相談しながら医療機関に対して情報交換やケアについて話し合いをして早期に退院できるように支援を行っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方に関して、往診の協力医療機関と医療連携体制を整えている。本人、家族等に重度化した場合における指針を説明し同意を得ている。また本人、家族等、主治医や看護師、介護職員等関係者が状況に応じて繰り返し話し合い全員で計画を作り方針を共有している。重度や終末期の利用者が日々を安心、安楽に暮らせるために、対応が出来ること、出来ないことを話し合い、家族や協力医療機関等と連携を密に図り指針や介護計画を共有しチームとして支援に取り組む体制を整えている。	終末期における施設の方針等を明文化し、家族に説明すると共に、同意書を交わしている。重度化した場合においては、家族・医師・看護師・職員で話し合い、医療機関と連携をとりながら施設として出来る限りの支援が行えるよう、協力体制を整えている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の応急手当の講習などで指導を受けている。また急変や事故発生時にも慌てず、実際の場合で活かせるよう日常訓練をしている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者を選任して防火点検リストを活用している。消防署の避難訓練を定期的に受けている。また適宜いざというとき慌てず昼夜を問わず避難出来るよう、職員と利用者が一緒に訓練を繰り返している。日頃より地域住民、警察、近所の消防団、近くの職員、消防に協力が得られるようお願いをしている。また災害マニュアル、家族への連絡表を活用している。避難経路の図式化や避難用すべり台を設置している。隣の地主さん一家には万が一の災害の際、救助活動の協力体制を整えている。	年2回、消防署立会いのもと消防避難訓練を実施している。災害時におけるマニュアルや連絡網を作成していると共に、避難経路図を施設内各所に掲示している。また、2階の居室のベランダには避難用滑り台が設置されており、複数の避難経路が確保されている。近隣住民との日ごとの交流や運営推進会議等を通じて、災害時・緊急時における協力体制が構築されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いを全職員がしないよう互いに日常的に確認して徹底している。個人情報保護法の研修や資料を読み理解に努めている。各個人のファイルを事務室で管理して、秘密保持の徹底を図っている。またプライバシーの保護のため写真の掲載の際は承認の可否、個人情報の利用目的兼同意書を書いて頂き確認している。	個人情報保護におけるマニュアル・規程・同意書を作成すると共に、個人書類を事務所にて管理し、個人情報保護に努めている。職員は、入居者に対し、尊敬の念を持って接遇するよう意識しており、個人を尊重した対応に努めている。また、入居者の希望に応じて居室に鍵を設置し、プライバシーの保護に努めている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとり思いや希望のが表せるよう、職員が日頃のコミュニケーションで意志を汲み取るようにし、自分で納得して自己決定できるよう心がけている。また意思表出が困難な方に関しては、表情やしぐさ行動等を注意深く観察し、それを職員全体で話し合い情報が共有できるようにしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に。その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活のリズムやペースを大切に、その人らしいものとなるように職員が随時、伺って利用者に合わせている。また、こまめに活動内容に応じたシフトを組んでいる。センター方式を活用して本人がその日をどう過ごしたいかを詳細に調べて日々の支援に活かしている。日々の生活では一人ひとりのその時の体調や気持ちやペースを大切に、その日をどう過ごしたいか一人ひとりの希望に沿った支援が出来るよう心がけている。食事時間なども本人のそのときのペースにあわせ柔軟に対応している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの個性、希望を大切に、訪問理容、訪問美容を活用している。入居者全員が女性より、服装のおしゃれの支援のため買い物によく出かける。身だしなみやおしゃれの支援をすることにより、気持ちに張りが出て、表情がいきいきとされている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けなど本人の力や希望に合わせてながら職員と一緒にやっている。目の前にある畑で野菜の成長を楽しみ、収穫した野菜と一緒に喜びながら味わっている。また季節に合わせた行事食や外食会、誕生会などでパーティーに富んだ食の楽しみを提供するようにしている。それぞれの咀嚼力に応じて一人ひとりに合わせたキザミ食や、粥食などの提供や、好き嫌いに応じた代替食も提供している。又、職員が残食をチェックし次回への献立作りの参考にしている。外食などではそれぞれの行きたい場所や食べたいメニューをお聞きし喜んでいただけるように努めている。	本人の希望や能力に応じて、食事の準備や片付け等を共同で行っている。入居者と一緒に食材の買い物を行い、時期に応じた旬の食材や入居者の希望を取り入れ、献立を決定している。施設にて収穫した野菜の活用で季節感を味わうと共に、行事食や外出会等を実施し、食の楽しみを広げている。また、個々の入居者の嗜好や能力に合わせた食事の提供と介助も行われている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士があり個々に応じて食べる量や栄養バランス、食事の出し方、介助の方法を工夫している。また一人ひとりメニューの嗜好調査の実施や、お茶の時間を設け様々な飲み物を選択できるようにして水分量を確保している。チェック表で個々の食事の摂取量を職員全員が把握し、支援に活かしている。糖尿病の方向けにカロリーコントロールもしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの習慣や力に応じて、毎食後口腔ケアを支援している。また訪問歯科の口腔ケアの先生に指導を受けている。その指導を活かして利用者の力を引き出しながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの力に応じて、おむつ、ポータブルトイレ、トイレなどの手段を用いて段階的に排泄が自立できるよう支援している。それにより一時入院等でおむつをしていた方も、時間毎の声かけやポータブルトイレからトイレへと段階的に自立を促し、トイレでの排泄が可能となった。また体調不良等により一時的にトイレへの移動が難しくなった方に対しても、ポータブルトイレを使用していただくことで、できるだけおむつの使用はしないで済むように支援している。またおむつを着用している方に対しても、排泄チェック表でパターンを把握し職員間で情報共有し、時間毎のトイレ誘導でトイレでの排泄につなげていけるよう支援している。職員間で排泄のパターンを共有した上で、本人のしづかさ等を観察し、トイレ誘導のタイミングに活かし、出来るだけトイレでの排泄回数を増やせるようにしている。	排泄チェックリストを作成し、一人ひとりの排泄パターンを把握していると共に、個々に合わせた対応を工夫して、出来る限り排泄の自立に向けた支援を行っている。夜間においては、おむつやパット・ポータブルトイレ等、入居者の能力や安全面等を考慮して適切に活用している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便の有無を確認して、一人ひとり個々の状況に応じて原因を探っている。薬だけに頼らず、予防と対応のため散歩、体操、食物、水分量、睡眠で調節できるよう支援して自然排便を促している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	季節ごとに一人ひとりに時間帯、タイミング、曜日、体調、長さ、週に入る回数、順番等を伺って、くつろいで入浴して頂いている。湯温や湯量、入浴時間なども、それぞれの好みを把握するようにし、好みに応じた入浴を提供できるように職員間で情報を共有するようにしている。羞恥心等に配慮し同姓の職員が介助を行っている。また、浴槽またぎが難しい方などは、二名介助で入浴介助し安全に入浴を楽しんでいただけるよう支援している。	入浴は毎日実施されており、希望に応じて回数や時間等柔軟に対応している。また、入居者の能力に応じて介助方法を工夫し、安全で楽しい入浴の支援をしている。脱衣所には個別のロッカーを設置し、プライバシーにも配慮している。入浴拒否に対しては、無理強いをせずタイミングや声掛けの工夫等で、適切な対応を図っている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとり十分な睡眠が取れているか確認または伺っている。出来る限り本人にとって自然に眠れるよう昼寝や日中の活動を取り入れ一日の生活の仕方を細かく見直し工夫し職員間で検討し支援している。		
47		服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬箱と名入り薬袋を用いて、飲み忘れ、誤薬を防ぎ、特に薬が変わった場合注意し全職員に伝わる仕組みが出来ている。利用者の状況の変化があった場合速やかに看護職員や医師に伝えられるよう、日常の日誌に状態の経過を記録している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中でホーム内での家事などをそれぞれ希望や能力に応じて行っている。歌や手芸の得意な方や長年の農家で培われた知識などを、それぞれが日々の生活の中で活かせるように支援している。保育園訪問や学生達との世代間交流、地域住民との交流会への参加などホーム外の方々と触れ合う機会なども積極的に作るようにしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援を運営理念の一つにしており、積極的に支援している。各人個別にその日の希望を伺い、散歩、買い物、ドライブ、季節ごとの各所巡りは数多く、色々な所に行っている。ホーム周りは外出しやすい環境で家族や地域の人々と協力しながら毎日少しでも外に出る機会を作り、気分転換や心身によい刺激を得ている。重度化した利用者でも外出できる福祉車両を配備している。地域の住民と顔馴染みになり、老人会や地域の集会等にも積極的に参加している。福祉車両を活用して他利用者と一緒に、各個別に本人の希望にそって普段行けない特別に行きたい場所や、昔住んでいた懐かしい場所に行くことができた。地域の方々の協力で、地域のお祭りやバザー、文化祭、餅つき大会など季節に応じた行事にも参加できている。	運営理念の一つに外出活動を掲げており、日頃から入居者の希望に応じて、散歩・買い物・ドライブの他、地域行事や集会への参加等を行い、日常的に外出活動を実施している。福祉車両を活用し、入居者全員で外出を楽しむと共に、職員全員で外出会を企画・検討し、多種多様な戸外での楽しみを支援している。また、外出時の写真を施設内に掲示し、入居者と職員が楽しみを共有している。	

【千葉県】グループホーム かがやき 新松戸

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、家族とよく話し希望や力に応じて出納帳をつける、立て替え、少額所持して頂く等して納得、安心して頂けるよう支援している。それにより買い物時、安心して楽しめるよう支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個別に希望や有する力に応じて家族や大切な人との関係をつなぐため日常的に電話をしたり、受けたり、手紙のやり取りをして外部との交流を支援している。それにより、家族のコミュニケーションや訪問が増えた。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関周りや居間、食堂には季節の花々を多く置き、安らぐ音楽をかけている。利用者にとって不快な音や光がないが注意を払っている。馴染みのものや外出時の写真、利用者が作った作品を飾り居心地よく過ごせるよう、生活感や季節感を採り入れている。また利用者、家族、地域の方、運営会議メンバーに客観的な意見を伺って、工夫している。	リビングは採光が良くとても明るく、テーブルやソファを設置し、入居者がゆっくりくつろげるよう配慮されていると共に、入居者の作品や行事写真等が飾られて楽しい雰囲気作りがなされている。また、施設内の掲示物には画鋏を使用せず、入居者の安全面に配慮している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間に応接間、ホールを設け、一人になれるスペースや気のあった利用者同士で過ごせる居場所を工夫している。トラブルがあった場合や集団生活におけるストレスの軽減に活用している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談して思い思いの馴染みの物を持ち込み頂いて、不安やダメージを少なくする工夫をしている。本人の持ち物が少ない、意思の疎通が難しい利用者にも職員や家族が協力して居室作りに取り組んでいる。また毎日の居室確認で転倒、打撲につながらないように、物品の置く場所に注意を払っている。	入居者の希望に応じて馴染みの物を持ち込む事が可能となり、居心地良く生活が出来るよう配慮している。全居室に火災報知機が設置されていると共に、エアコン・換気扇が設置され、適切な空調管理がなされている。また、希望により個室に外鍵を設置し、入居者に安心して外出してもらえるよう工夫している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの身体機能を活かしてあくまで普通の生活の場としての備えをしている。玄関周りのスロープ、各箇所の必要最小限の手すり、滑り止めマットを敷いた階段でできるだけ自立した生活を送って頂く工夫をしている。利用者の認識違いや、判断ミスでの混乱や失敗を防ぐために一人ひとりのわかる力を見極め、各所の居室と共有空間に表札やホワイトボード、カレンダー、大きい字の時計を用いて工夫している。		